

【学長講話】

令和4年7月9日土曜日、松本哲治学長動画出席のもと、令和4年度浦添市てだこ市民大学が開講されました。市民協働によるまちづくりについて、学長の体験などの講話がありました。

今年度のてだこ市民大学は、開講式直後の第1回講座から、令和5年1月の閉講式を含め全4回の講座を予定しています。



【第1回公開講座 市民協働まちづくりって、な～に？】

市民協働によるまちづくりについて、那覇市若狭公民館長の宮城潤氏と、浦添市社会福祉協議会の石原宏紀氏の講演がありました。宮城氏は、「広報」=情報発信と「公聴」=情報収集の重要性を指摘したうえで、若狭公民館における防災の取り組みや、ネパール人コミュニティとの交流(多文化共生)、パーラー公民館の活動を通して、「想いや特性を活かした協働事業を行うことでネットワークが広がると同時に、エンパワーメントされ、自発的・主体的な活動が連鎖していく」と指摘しました。最後に①地域課題の「現状把握の段階で協働」すること、②「互いの強みや資源



を理解すること」、③「自発的に関わりたくなる魅力を生み出すこと」、④信頼関係を構築すること、⑤楽しむことの重要性をあげていました。石原氏は、少子高齢化の加速化などにより、地域課題が増えるなかで地域を支える担い手が減少することについて触れたうえで、地域における多様な人材と協働し、地域課題を解決するための新たな社会資源の創出が必要であると述べました。そして、福ふく会とBee Free Laboの活



動を紹介したうえで、「一人ひとりが課題を持っていること」と「地域自治会を巻き込むこと」の重要性について指摘しました。最後に、まちづくりとは、自分とは違う誰かと一緒に新しい物語をつくりあげ、そのために一人ひとりがもつ物語に対して共有・共感することが大切であると結論づけました。

参加者からの感想としまして、自分にできることは何かと深く考えるきっかけになったこと、やりたいを形にして、わくわくすることの重要性がわかったことなどがあげられました。

＼ 受講者からの声／

- ・ 楽しめるまちづくりを学びたいと思います。
- ・ 講師お二人共、楽しむこととおっしゃっていたことが印象的です。
- ・ 地域の課題解決として難しく考えるのではなく、楽しみを見つけ、楽しんでやるのが大切だと感じた。

今回の講座は・・・

「そのときどうする？
防災の基礎を学ぶ」

8月27日(土)14時～16時